月刊 オリーブ
2023 12
Vol.103
— 真の更生を目指して —

神への信頼

様々な状況の中に於いても、試練の只中にあっても「神への信頼」が揺るぎないものでなくてはなりません。何故なら「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」（ローマ10:11）と聖書は教えているからです。

このように書くと、信仰のない方々からは「はぁ～？」と言われそうですが「神への信頼」は私が生きる全ての原動力にもなっています。「たら…れば」を私に当てはめると大変驚きます。私が受刑中、悲惨な事件に遭わずクリスチャンになっていなかった**たら**、私の人生はどのようになっていたでしょう。

事件に遭った事で徳島刑務所から熊本刑務所に移送され、受刑中に出所後の熊本での人脈が整えられました。出所～教会生活～シンガポール（聖書学校）～帰国後結婚～オリーブの家の立ち上げ準備。10年過ぎた今も、オリーブの家は皆さんに支えられしっかり立っています。「神への信頼」がなけ**れば**オリーブの家は存在していないと断言できます。

しかし、この10年間、順風満帆であったわけではありません。設立当初、私にC型肝炎が見つかり、インターフェロン治療を半年間続ける苦難体験もあります。まるで大海原に浮かぶ小舟の様に大波小波も多く経験してきました。そんなオリーブの家を神は泥舟となさらず、守り続けて下さいました。なんという恵み、奇跡でしょうか！

何度も巻頭言で取り上げています。私達クリスチャンには永遠の命が与えられています。それによって死に対する恐怖は薄れますが、これは有限の命を軽視する事ではありません。逆に与えられた命をしっかり生き抜く事が私達一人ひとりの使命です。そして、その場で存在し続ける事が神の御心です。

この世はサタンの支配下にあると教えられています。地球上至る所の争いを日々情報として伝えられる事でもそれを理解できますし、日常、身近なところに起きる諸問題にもそれを感じます。大きく分ければ国家間、組織の人間関係、友人知人関係、夫婦の離婚率が日本でも3割にも達している点などです。どこにでも争いの芽が噴き出ていると言わざるを得ません。これらは様々な情報に翻弄される現代社会の闇（サタン）が原因と思われます。

（ウクライナ、ロシア）（中東）今世界で起こっていることは、私達が住む日本も他人事ではありません。台湾有事もささやかれているなか、離島の避難訓練等、日本国もやっと本腰を入れ始めました。

「神への信頼」で始まった巻頭言。最後も「神への信頼」で終わります。

身近で何が起きようとも、たとえ理不尽と思える様なことであっても…この世で夢が叶う事が無くても…永遠の命を与えて下さる神を信頼して生きていきましょう。

特に塀の中で生活される皆さんに「神への信頼」を、お伝えしたく思います。家族との縁が途絶え孤独と思える日常であったとしても、塀の中も、社会も、何ら変わりがありません。「万人祭司」お一人おひとりが神様としっかり繋がってさえいれば孤独ではありません。天国でお会いする事ができます。それを思うと喜びさえ感じるのではないでしょうか。皆さんの日常に平安が与えられます様お祈りいたします。

オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

納骨式を終えて
スタッフ、ファミリーからの一言

オリーブの家の納骨式

令和5年10月22日（日）秋晴れの下、市街を一望出来る絶景の高台にて納骨式を迎える事が出来ました。それだけでも感激していたのですが、永山太牧師のお姿を拝見した時、佐藤さん、小谷さん、石井さん、お三方は勿論のこと、今後、見守らせて戴く私達も安息の地を迎えることの大切さをあらためて実感した次第です。メモリアル・プレイスを継続していく覚悟を与えられました「この日」を本当に感謝です。ありがとうございました。

（後藤松陽）

納骨式を終えて

気持ちの良い風が吹き抜ける秋晴れの下、スタッフやファミリーなど多くの方が参列し3名の方の納骨が行われました。納骨された2人の方とは面識がないのですが、石井さんとはオリーブの家に入室時、掃除の仕方、オリーブの家でのルールなどを教えてもらったりしていました。スタッフになってからは、石井さんの部屋の掃除を手伝う時など、昔の話を聞いたりした事を思い出し賛美をしました。

お墓が眺めがいい場所にあって、とてもいい立地にあるので、「神様からのプレゼントなんだ！」と感じました。

（松崎秀紀）

思い出を一杯、ありがとう！

私にとって納骨された3名（佐藤さん、小谷さん、石井さん）とは、長い付き合いでした。

佐藤さんは私と同じ鹿児島県人で熊本地震も一緒に体験し、避難場所では枕を並べて寝ていました。買い物に行くにも、また佐藤さんの好きだったカラオケにも何度か一緒しました。

小谷さんは毎週日曜日の礼拝は迎えに行き食事後は自宅まで送ります。迎える時、目が悪いのでしょう大きなサングラスをしていたのを思い出します。さびしいのか酒を飲んで酔うと必ず電話をしてきます。小谷さんともたくさんの思い出があります。

石井さんとは何回かぶつかりました。でも私にとって良き話し相手でもありました。一緒に食事に行ったりした事など思い出されます。

オリーブの家にお墓が出来た事に感謝します。納骨された3名の方々も一緒にお墓に入る事が出来て喜んでいると思います。また、お会いできることを信じ、私はこれからもオリーブの家で頑張って行こうと思います。皆様のお祈りに感謝します。ありがとうございます。

（今村光雄）

納骨式に参加できました

秋の日射しが心地良い、この素晴らしい時間を皆さま（ファミリーの方々）と共有させて頂きました事ありがとうございます。3名の方々の紹介を理事長がされている時、お写真を見ると、まるで天から「ありがとう！ 感謝します」とおっしゃっているようでした。小鳥の囀りにそれを感じます。讃美として歌った2曲、笑って聞いてくださっていたのかなと思います。東京から参加してくださった方々、理事長はじめ全スタッフの思いが、天におられるお三方に届きますように。そして、素晴らしい式を開いてくださった神様に改めて感謝します。

（O・Y）

スタッフ3名は、それぞれに深い思いがある様子です。ファミリーの方は、その場の雰囲気に何かを感じ取ってくれている事が嬉しいです。また、天国でお会いしましょう！

青木康正

支援者からの寄稿

DVはなおせる！

NPO法人 女性・人権支援センターステップ
理事長　栗原加代美

5. 怒った人への対応

今から10年前の寒い冬の朝7時に電話のベルがなりました。「先生助けてください。妻子を殺してしまうかもしれません。僕は怒りで狂いそうです。両親、妻子、警察官に対してです。誰も私をわかってくれなかったからです」。事務所に来てもらい、2時間、彼から話を聞きました。彼は大粒の涙を流し、鼻水をかみながら幼少期から今まで起きた事実と心の暗闇をいっきに話し続けました。彼は40代、小学生の2人のお嬢さんがいる家庭、彼の幼少期は地獄そのもの。父親は気に入らないことが起きると母親を包丁で切りつけ、血みどろの母親が警察を呼び、争いが絶えない家庭。母親は慰めを求めて不倫を行い、彼はその現場を見ながら小学生時代を過ごす。両親への憎しみを持ちながら。結婚して彼もまた、父親と同じ行為を妻子に行い、妻子は結婚10年目に家出。彼が警察に相談しても虫けらのように扱われ、妻のせいでこんな目にあったと思い、妻子への殺意と自殺願望が芽生え、殺人をやくざにお願いする。私は批判しないで彼の悲しい気持ちに共感しながら、ひたすら聞き役を努めました。彼は話し終わった時、「こんなに批判なさらず聞いてくださった方に今まで会ったことがありません。全てを受け止めて頂いて私の中から殺意と自殺願望が消えました。今日は私の命日になりました。ステップは私を育て直してくれる子宮になると思います」。

彼は見事に変わり、DV相談員になりました。妻とは協議離婚になりましたが、彼は怒ることなく、離婚を穏やかに受け入れました。ストーカーになることもなく、罪を償い、良い父親になるために変化をし続けています。

最後に別の加害者のパートナーから送られた嬉しい手紙をお伝えします。

去年の11月、夫の暴言に耐えられず家をとびだしました。それがきっかけとなり夫婦でステップにつながりました。夫はステップで学び、本当に変わりました。暴言はなくなり、話を良く聞いてくれるようになりました。そればかりでなく、褒めて感謝して私を喜ばせてくれます。去年までの辛かった日々が嘘のようになり、笑顔の絶えない家庭になりました。夫だけでなく、私も虐待した母を許せるようになりました。怒りの数値化、7つの良い習慣の実践が役立ちました。さらに、嬉しいことにお腹に新しい命も授かりました。本当にありがとうございました。

人は学べば変われることを参加者が教えてくれます。人間って素晴らしいですね。変わるために日々努力している参加者に敬意を込めて拍手を送ります。

栗原加代美
くりはら・かよみ

1946年生まれ。共立女子大学英文科卒。共立女子聖書学院卒。1977年自宅を開放して、かもい聖書教会として開拓伝道を開始、2001年NPO法人「女性・人権支援センター　ステップ」設立に参加、電話相談や被害者用シェルターを開設、同法人理事長。
DV問題に悩む女性たちを支援する中で、加害者が変わらなければ新たな被害者が出てしまう。根本的な問題解決にならないと、2011年より加害者更生プログラムを開始、DV・ストーカーの専門家として講演会活動、テレビ出演などで活躍中。

オリーブの家で見つけた笑顔

子どもにかえって芋掘りです！

11月も半ばとなり、いよいよ芋掘りの日がやってきました！ 一番喜んでいるのは私でしょうか!?笑

果たして、芋たちは入っているでしょうか？

出てくる、出てくる！ 入ってました！ 沢山の芋が鮮やかな紫色の顔を土の中から見せます。ファミリーとスタッフで良い汗をかきました。

収穫した芋は、2週間ほど寝かせてから農園長が、バーベキューコンロで焼き芋をしてくれる予定です。みんなでハフハフと焼き芋を食べます！ これもまた、楽しみです♪

副理事長　小原順子

2023年8月～10月会計報告

		8月	9月	10月
月次自立準備支援人数		3名／7室	4名／6室	6名／6室
グループホーム利用者数		7名／8室	7名／8室	8名／8室
累計ファミリー数		152名	154名	156名
収入	自立準備ホーム	327,450	497,178	708,350
	献金	947,000	1,607,500	2,719,500
	グループホーム	2,003,016	1,866,286	2,246,290
	その他	94,818	92,834	76,847
収入合計		3,372,284	4,063,798	5,750,987
支出	家賃	435,600	457,600	457,600
	水道光熱費	187,574	143,125	169,663
	食費	381,616	420,482	396,752
	人件費	2,002,356	2,022,280	1,898,522
	活動費	144,813	153,332	108,211
	その他経費	484,318	386,569	755,721
支出合計		3,636,277	3,583,388	3,786,469
収支合計		-263,993	480,410	1,964,518

前月繰越現金預金残高	4,334,087	3,847,829	4,901,347
翌月繰越現金預金残高	3,847,829	4,901,347	4,390,783
施設準備積立金残高	2,450,088	2,500,088	2,550,093

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ

会社の存続率は設立10年で約6％と言われます。100の組織が誕生しても10年後には94が消滅しているのです。その中にあってオリーブの家が存在している恵みを覚えます。理事長が巻頭言で書かれたような人間関係の痛みはどこの組織にもつきものです。それらを超える神のご計画の中、不完全で、赦された罪びとに過ぎない私たちが運営するオリーブの家が、神と皆様の愛と憐みで立ち続けられるようお祈りとご支援を引き続きお願い申し上げます。

理事　今井洋子

※ 自立準備ホームもグループホームも現在満室となっていますので、公的援助金が増えています。※ 活動費、その他経費には、納骨式関連旅費、司式料として68,650円が含まれています。※ 献金のうち1,800,000円は、墓石購入代としての私的献金です。

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：**0182**）
京町支店（支店コード：**156**）
口座番号：（普通）**1574408**
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：**990**）
口座番号：**17180-5444801**
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：**718**
口座番号：（普通）**0544480**

月刊オリーブ
2023年12月１日発行
(毎月1回発行)　第103号

編集・発行　ＮＰＯ法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/